

つきたい力

自ら学ぶ力

取組みの概要・ポイント

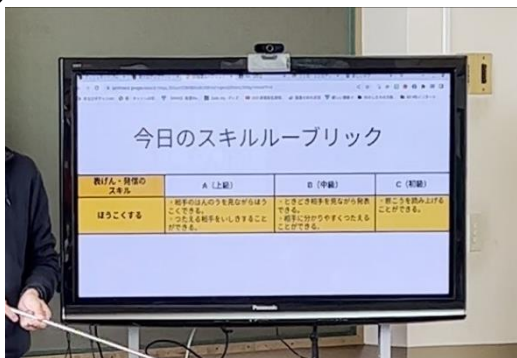
情報収集・情報の整理分析・情報編集・表現発信という4種の情報活用スキルに特化したルーブリック（評価基準を一覧表にしたもの）を、低・中・高学年用に作成している。これを全学年の様々な学習活動の前に提示することで、学習の調整や自己評価、学びの連続性を意識したふりかえりができる。

具体的な取組みの内容 情報活用スキルルーブリックの活用



↑↑↑  
 情報活用スキル  
 ルーブリックの  
 詳細はこちら

情報活用スキルルーブリック  
 の理解



(例) 表現・発信のスキル「報告する」に関する  
 情報活用スキルルーブリックを理解する

情報活用スキルルーブリックを  
 意識しながらの学習活動

A評価をめざすなら何が必要かを  
 考えながら学習を調整



(例) A評価をめざして、聞く人が分かりやすくなるよう相手の反応を見るなどしながら報告する

自己評価と学習のふりかえり

A～Cのどの評価にあてはまるのか  
 何ができたか・できなかったか・理由  
 次はどうするのか



(例) 情報活用スキルルーブリックの自己評価を紙の表に記録したり、ICTでその時間の学習全体のふりかえりをしたりする

情報活用スキルルーブリックを活用する  
 3つの利点

- ① 評価基準が明確になる  
 → ペーパーテストでは評価しにくいことも評価可能
- ② 自ら学ぶ力が高まる  
 → 自己評価やふりかえりとセットで活用することで効果倍増
- ③ 指導と評価が一体化できる  
 → 授業改善に活用することが可能

取組みを通しての子どもの変容

ふりかえりに書く内容が変わってきた。例えばある子どもは、令和4年度当初、「今日は○○ができるようになりました。次は●●をしたいと思います。」といったことを書いていた。しかし、学習を積み重ねた結果、「残り4時間なので、次の時間で□□をやり終えて、そのあと■ ■を意識していきたいです。」という内容のふりかえりを書けるようになった。学習の調整や学びの連続性を意識したふりかえりになってきている。学校で行ったアンケートでは、学びの過程で具体的なふりかえりを意識している割合が全校児童の89.8%となった。